



「子供に良い本を知ってもらいたい」「子供と一緒にお話の世界を楽しみたい。でもどんな本がいい?」。良い本との出会いは濃密な親子の関係を育てます。冒険と勇気、神秘と謎、愛と友情…。新しい発見と人生への新たな目標を与えてくれるかもしれません。本はいつでも新しい世界を用意してあなたを待っています。そして「ピッピ」の活動は、子供たちが自分の夢を現実に導くための小さなきっかけを提供しています。

「おはなしの会ピッピ」は結成16年目。大友さんは、代表になって7年目を迎えました。活動の中心は幼児期から学齢期を対象にした絵本の読み聞かせです。

絵本を開いて読み聞かせが始まると、子供たちはすぐに身を乗り出し、目を輝かせて物語の世界に飛び込んできます。繰り返し読んでいる物語でも「もう一回読んで」とリクエストも来ます。

「子供が成長していく姿、喜ぶ様子を見るのがとてもおもしろい。『なにが好きなんだろう?』『なぜ笑ったんだろう?』と気になる」といいます。そして子供たちが自分で本を選ぶようになった時に「広い世界に出合っしてほしい」と願っています。

町には、生後6カ月を過ぎた赤ちゃんに絵本2冊を贈る「ブックスタート」制度があります。「『かわいいね』『あつ、今笑った』と一緒に感じる時間、場所が必要。本は赤ちゃんと心を通わせることができる道具なんです」。

14年前、ご主人の転勤で東川町に。

「ピッピ」の活動を知り、活動に関わってきました。

長男が幼稚園に通っていた時、小樽市の絵本児童文学研究センターで基礎講座を受講したのが本の世界に入ったきっかけ。高じて司書の資格も取りました。

「世界が広がった。人生の選択肢が広がった。自分の子だけでなく、どんな家庭環境の子であっても広い世界で生きてほしい、幸せになってほしい。そのためには学校図書館の充実が必要」との思いに駆られるように。皆さんにも本の楽しさを知ってほしいですね」。

町内の小学校では、朝の読み聞かせに父兄のボランティアが入っています。第一小学校では「ピッピ」の皆さんが読み聞かせをしています。皆さんが読み聞かせをしています。併せて大友さんが図書館整備ボランティアも行っていきます。

しかし一番必要なのは学校図書館がしっかり機能すること。「学校図書館の役割は、子供たちに本を紹介し、勉強などに役立つ本の準備をすること。そのためにはいつも近くに司書の役割が大切です」。

第一小学校朝の読み聞かせ



たくさんの登場人物が出てくるパネルシアター(上)とエプロンシアター(下)

「おはなしの会ピッピ」はいろいろな活動をしています

子育て支援センター(幼児センター)のクリスマス会(昨年12月)

学童保育センター

おおとも ゆみ
大友由美さん / 17区西町、入会のお問い合わせは子育て支援センターの坂東さんへ ☎82-5100
東川町の絵本読み聞かせボランティアの会「おはなしの会ピッピ」代表(4代目)、司書教諭、司書、旭川市立東明中学校学校図書館補助員。
「おはなしの会ピッピ」の会員は18人。1996(平成8)年、育児サークル「おかあさんといっしょ」(当時)から発展。活動は子育て支援センター、東川養護学校、学童保育センター、文化交流館、東川第一小学校の読み聞かせ、絵本の選び方と読み方、読書学習会。